

血液内科学講座教授就任挨拶

高知大学医学部血液内科学講座 教授 小島 研 介



皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。このたび令和元年6月1日付けで、高知大学医学部血液内科学講座教授を拝命いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

1991年に地元の岡山大学医学部を卒業し、同大学医学部第二内科学教室（現血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科）に入局しました。派遣先の市中病院では専門分野をもたず、なんでもないか（何でも内科、現在でいう総合診療科）医として診療に携わりました。医師5年目から岡山大学病院、国立岡山病院（現岡山医療センター）、愛媛県立中央病院などで、移植医療を含む血液臨床経験を積むうち、血液内科学をより深く探求したいと考えるようになりました。血液疾患は生半可な知識で実践することが難しく、急激な経過をとり治療も困難が伴う、臨床的に過酷な症例が多いのですが、全身かつ多岐にわたる病態を総合内科医的な視点から解きほぐし、有効な治療戦略を組み立ててゆく、さらに医学・医療の進歩を第一線でふれながら、診療上の問題を医学研究にダイレクトに結びつけてゆくという、科学的臨床医にとっては遣り甲斐のある分野です。

2004年に米英の施設6ヶ所に応募して、米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター（MDACC）に留学いたしました。3年目からは准教授として、造血器腫瘍におけるp53シグナル異常を標的とする新規分子治療学の、基礎から早期臨床研究まで携わりました。そこで学んだこと

は、何をやるか、ではなくて、誰とやるか、がより重要であるということ、多様なバックグラウンドと才能をもつスタッフの存在が、強靱な組織と実績を積み上げる原動力になるということでした。素晴らしい仲間と一緒に道を拓く経験ができたなら、苦しみは半分、楽しみは倍に、そして人生は充実したものになるものと信じております。

高知大学血液内科学講座は、内科学の一部門として1981年に開設された血液・呼吸器内科学講座（第三内科）を起源とします。初代教授である三好勇夫先生は、現在成人T細胞性白血病として知られる白血病細胞の新培養法を考案、世界初の細胞株を樹立しHTLV-Iウイルス発見に道を開きました。三好勇夫名誉教授、二代田口博國名誉教授は、岡山大学の先輩にあたります。これまで第三内科が築かれた伝統を引き継ぎ、大学、高知県の血液内科を発展させるため努力いたしますので、何卒ご指導ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。

略歴

- 平成3年 岡山大学医学部卒業
- 平成3年 岡山大学医学部 第二内科学教室入局
- 平成12年 岡山大学医学部第二内科 助手
- 平成16年 米国MDACC分子血液治療部 フェロー
- 平成19年 和歌山県立医科大学輸血・血液疾患治療部 講師
- 平成21年 米国MDACC白血病科分子血液治療部 准教授
- 平成25年 佐賀大学医学部血液・呼吸器・腫瘍内科 准教授
- 令和1年 高知大学医学部血液内科学講座 教授